

第8回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月20日（月）12:45～14:45

2. 場所：沖縄科学技術大学院大学

3. 出席者

（1）構成員

平澤座長、相澤委員、伊集院委員、西澤委員

（2）内閣府

榎谷沖縄振興局長、渡部審議官、池上事業振興室長、水本企画官、原補佐、小林係長、川島事務官、野原企画官

（3）沖縄科学技術大学院大学

ドーファン学長、バックマン首席副学長、久保副学長、高梨副学長、小桐間准副学長、松林監事

4. 議事要旨

議事1 平成27年度における学園の業務実績について

議事2 その他

ドーファン学長及びバックマン首席副学長より、平成27年度における学園の業務実績等について説明があり、概ね以下の質疑応答があった。（○は委員の意見又は質問、→はOISTの回答）

○最初の卒業生・修了生を迎えるにあたり、学生のクオリフィケーションはどうなっているのか。

→すでに、スタンフォード大学やハーバード大学といった国外の主要大学を参考にし、Ph.D. プログラムを構築している。また、世界的にみても十分な水準であると考えている。

○就職や今後のキャリアアップに際し、OIST 全体でサポートをするシステム構築するべきではないか。

→学術分野における教職員の世界的で強力なネットワークの活用、学生自身のネットワークの構築のための国際学会等へ派遣支援や、キャリアプラン構築の専門家を揃えるなど、OIST 全体でサポートを実施している。また、産業界からも CEO レベルの企業家を招き講演いただくなど、産業界からのサポートも実施している。

○教職員の定員60名に対し、実際は何名を採用しているのか。

→現時点で51名を採用している。現在、採用活動をすすめており、定員分の採用を実施できると考えている。

○OISTはアクティビティを拡充する段階であり、教職員の採用にあたっては、新しい専門

分野、しかも若手人材を採用することが重要ではないか。

→そのとおりである。

○学生の入学者数が、2015 年は 24 人と目標より少ないように思われるが、引き続き質の高い学生を集めるため、どのような取組を実施していくのか。

→概ね希望どおりの人数を獲得できていると考えている。今年度の入学者も、現時点では、概ね希望どおりの人数を確保できている。引き続き、学生の質を担保するため、学生ひとりひとりとしっかりと向き合い、学生の質を見極めていきたい。また、女性比率の上昇も引き続き努力して参りたい。

○5 年以下の大学院であれば、学士号が入学することが通常想定されると思うが、入学者の割合が、学士号より修士号が大きいことは、どのように考えているのか。

→望ましいこととは考えていないため、修士号を増やしたいと考えている。しかし、OIST のプログラムは、他の大学とは大きく異なるため、修士号を持っていたとしても更なる成長を十分に期待できると考えている。

○民間企業との共同研究などが促進されている昨今、利益相反や輸出安全保障に対し、どのように対応しているのか。

→文部科学省のガイドラインに沿って、研究倫理委員会を設置した。また、自立発展セクションなど、然るべきセクションが、研究に支障をきたさないよう契約内容等を慎重に検討をしている。

○科研費の獲得が芳しくないが、獲得に向けてどのような取組を実施・検討しているのか。

→OIST が応募できる競争的研究資金をしっかりと把握・分析した上で、資金を獲得しているユニットから情報収集・共有の実施や、日本の研究者との共同研究の促進などを実施・検討している。また、実際の競争的研究資金の審査員から話を聞き、審査の対策に取り組んでいる。

○ガバナンス・業務運営について、開学からもうすぐ 5 年になるが、学内全体でルールが守られるようにサポートをお願いする。

→これまでもルールを守ることが心にかけているが、コンプライアンスの維持の観点から、今後ともルールの厳守を図ってまいりたい。

(注) 第 8 回検討会に先立って、同日午前中に、検討会委員による研究棟視察、研究員・学生との対談等が行われた。

(以上)